

原田新団長をお迎えして 「牛込の街を守る熱い想い」

第12代牛込消防団長ご就任、おめでとうございます。就任されて半月が経ちますが、現在のご心境はいかがですか。

- 団長という職責の重さをひしひしと感じているところです。ただ、団長となっても「地域を仲間とともにこの手で守る」という思いに何ら変わりはありません。

団長就任早々、管内で火災がありましたね。

- 消防団本部員や地元分団員も迅速に出場し、牛込消防署隊と連携が取れた活動ができたと思います。各団員の災害に備える意識も近年高くなっていると感じます。自分たちで自ら水利を確保し、鎮火後に、消防署の人からも褒めのことばをいただきました。訓練の賜物だと誇らしく思います。

お生まれは新宿区内でしたね。

- はい。昭和28年、新宿区富久町で生まれ、富久町で育ちました。生粋の新宿区生まれ・新宿区育ちです。36年前に新宿一丁目で飲食店を始め、その後、現在の新宿二丁目に店を移転し現在に至っています。

消防団に入団したきっかけを教えてください。

- 30年ほど前、父が富久中町会の会長だった時、町会に消防団員が一人もいなかったんです。「町会に一人も消防団員がいないのはおかしい。」という話になり、当時の防災部長さんはじめ、周囲の方々の勧めで消防団に入団することになりました。第4分団に所属し、活動してきました。

入団された後、様々な活動に従事されてこられました。思い出深い出来事は何ですか。

- 私が入団した当時は、訓練や会合は平日行われており、お店を持っている身としては、なかなか参加できませんでした。入団後、1年ほどのち、当時の分団長から『消防団消防操法大会』に選手と



原田 義明（はらだ よしあき）

昭和28年	新宿区富久町生まれ 富久町で育ち、現在は余丁町に在住
平成3年	牛込消防団入団 牛込消防団第四分団に在籍
平成22年	牛込消防団第四分団長就任
平成26年	牛込消防団本部副団長就任
令和2年11月	第12代牛込消防団長就任

して出場してみないか。」と言われ出場したときの経験が、私のその後の消防団人生の原点となっています。中村前団長や現副団長の栗田（くわた）さんとチームを組んで、操法大会の訓練に励みました。はまりましたよ。無我夢中で一生懸命やりました。操法大会の訓練を積み重ねれば、火災現場でも必ず役に立ちますから。先輩の指導や仲間、家族の支えがあり東京都大会にも出場することができました。操法大会が終わった後の、先輩や仲間との「飲みニケーション」は今でも大切な思い出です。皆で熱く語り合うなかで、「地域のためにやる。」という意識が強くなったような気がします。

ここまでお話を伺っただけで、原田団長の熱い想いが伝わってきます。

ところで牛込消防団は、どのような良き伝統があると思われますか。

- そうですね。一言でいえば、135人の団員が「結束」していると感じます。「ワンチーム」というのでしょうか。指揮命令系統がしっかりとしている。実は、他の消防団の方からも「牛込消防団はまとまっているね。」と言われたことがあるんですよ。その時はうれしかったです。



～「ワンチーム」

牛込消防団には、脈々と受け継がれた結束力がある～
 そう語ってくださった原田団長からは、135人の団員の長として、その伝統を受け継ぐ熱い想いを優しい笑顔と眼差しの中に感じた。

街も、昔と様変わりしたところもありますね。火災も昭和44年の105件をピークに、去年は25件と大幅に減少しています。そのような社会環境の中、地域防災のリーダーとして今後、消防団の果たす役割として重要なことは何でしょう。

- そうですね。まず、町の様変わりということでは、余丁町から富久町にかけて、道路拡張が行われました。道路ができるということは、もともと住んでいた人が移動するということでもあります。また大小問わず新しいマンションが次々に建設されています。昔から地域に根をおろす人たちと新興のマンションにお住まいの方との交流は、地域防災の観点から欠かすことはできません。消防団は、両者の交流の

かけはしとして積極的な役割を果たしていきたいし、また果たしていかなければならないと考えています。

現在、消防団員の確保が国全体の課題となっています。消防団員の確保に向け、団長としてどのように取組みを進めていきますか。

- 牛込消防団では、現在、各分団が分団長を中心に、それぞれ活発に募集広報に取り組んでいます。若い人も入団してきており手ごたえを感じているところです。

そのような中、私が重点的に取り組みたいのは、入団してくれた団員が活躍できる場を整えることです。活躍する確かな場がないと参加しにくくなり、いずれ足が遠のいてしまいます。まずは訓練

の機会を確保することです。先ほど私がお話ししたとおり、訓練は、世代を超え先輩や仲間とのきずなが深まる場でもあります。「やりがい」を感じることができる一番の機会です。幸い牛込消防署の協力もあり、訓練体制も整ってきています。

また、「機能別団員」という制度を積極的に活用すべきと考えています。「機能別団員」とは、特定の活動や任務に従事する消防団員のことです。消防団の活動は幅広いですが、今後は災害対応から住民の方への指導などを万遍なくやることは、団員の負担が大きいし、それを求めるのは難しい時代になってきていると思います。住民の皆さんへの応急手当の指導や、防火防災訓練の指導にやりがいを感じている団員も多い。各団員が、おのおの得意な分野を中心に、地域の安全に貢献することができるようにしたいです。

「機能別団員」となる対象者には、定年退団団員も指定されていますが、このことの意味は何でしょうか。

— 定年退団団員が「機能別団員」として再入団する取り組みは、当団では、中村前団長の先見の明とご尽力により、他に先駆けて採り入れています。定年を迎えた団員が、77歳までであれば再入団できるものです。長年の経験を活かし、地域社会への貢献が実感できる素晴らしい制度だと思います。

そして、定年退団団員の再入団は、このことだけにとどまらず、さきほども触れた牛込消防団の「ワンチーム」をさらに強固にするために、有意義であるということです。地元において街を知り過去の災害を知る先輩たちは、いざというときに頼りになります。先輩たちの教えや経験は得がたいものがあります。「機能別団員制度」及び定年退団団員の再入団により、先輩から後輩たちに伝えていく、新しい世代に伝えていく、という牛込消防団の伝統に磨きがかかればよいと考えています。

首都直下地震や特異な災害に備え、牛込消防署との連携もこれまで以上に重要となってきますね。

— そうですね。歴代の署長をはじめとする牛込消防署の皆さんからは、いつも手厚くご協力やアドバイスをいただいております。

団員には、これからも、火災現場での的確な動き方を身に付けてほしいし、積極的に消防署と連携し災害現場で活動にかかわってほしい。スタンドパイプの活用などできることはたくさんあります。



最後に、街の方へのメッセージをお願いします。

— あらためまして、11月1日より、牛込消防団長を拝命しました、原田義明と申します。

牛込消防団は、「わが街はわが手で守る」をスローガンに、お住まいの方や事業所の皆さま方と連携し、地域の安全に邁進してまいります。今後とも、牛込消防団へのご支援ご協力をどうぞよろしく
お願いいたします。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。

(インタビュー実施日 令和2年11月16日)

牛込消防団長就任挨拶



牛込消防団 団長 原田 義明

令和2年11月1日付で牛込消防団長を拝命しました原田義明です。

地域の皆様におかれましては、日頃より牛込消防団の活動に多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

牛込消防団は、昭和22年11月の発足以来73年の長きにわたり、災害対応や風水害への対応、平常時における火災予防の啓発活動など、地域の皆様の安全と安心のためその役割を果たしてきました。

しかしながら、近年の社会情勢の変化の中で、災害や事故の態様は複雑多様化の傾向を強めており、また消防団員の減少や高齢化などの課題にも直面しております。

牛込消防団といたしましては、全団員挙げて災害への備えを万全なものとするとともに、地域の皆様との連携を深めながら、かかる課題に適切に対処して参る所存でございます。

今後とも、牛込消防団に対し、皆様からの変わらぬご支援・ご協力を心からお願いいたします。